

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	尼崎市立たじかの園		
○保護者評価実施期間	2024年11月26日		～ 2024年12月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24名	(回答者数) 18名
○従業者評価実施期間	2024年11月24日		～ 2025年1月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	25名	(回答者数) 22名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年2月1日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保育士だけでなく、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、心理士が連携して療育にあっている。	・その日療育に入るメンバーで事前の打ち合わせ、療育後の振り返りを必ず行い、こどもたちの姿や支援方法、保護者の様子を確認し、共有するとともに次回の支援につなげるようにしている。	・より発展的な振り返りになるように、振り返りの在り方や記録の書式を検討する。 ・同職種のセラピストが同時に療育場面に入ること、職員のスキルアップを図る。
2	地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っている。	・障害児等療育支援事業の施設支援一般指導業務で現場に向き、事業所職員に支援の助言をしたり、毎年施設支援講座で研修の機会を提供している。また、障害児通所支援ネットワーク会議事務局を務め、研修等の機会を提供している。	・センターとしてさらに取り組みを深めていく。
3	職員の資質向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会を確保したり、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、外部研修に参加している。	・事業団研修、園内研修、外部研修への参加をしている。また、研修報告を通して、全体にも研修内容を共有している。また、スーパーバイズによる臨床指導や症例検討を定期的に行っている。	・受講者に偏りが生じるため、希望だけでなく、受講の要否や対象とするかを検討していきたい。 ・保護者に取り組みを正しく理解してもらえるような職員の説明力を上げる取り組みを考える。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	親子通園を基本としているため、保護者の就労で週2回以上の登園が難しいこと	・保育所(園)に通うためには、保護者の週4回の勤務が必要になるため、週2回の登園が難しい。	・令和7年4月から週1回登園を認めていく。
2	障害種別によらず、さまざまな障害児が利用できるようになっていないこと	・元肢体不自由児通園施設であり、隣接にあこや学園があり、それぞれの施設の支援の専門性により対象者を定めてきたため。また、建物設備も障害種別の異なることととって、適当とは言えないため。	・あこや学園と連携し、両者でさまざまな障害児の受け入れを検討していく。 ・令和7年4月から、独歩ができて間もなく、運動機能にあこや学園など他の児童発達支援事業所の利用がまだ難しいお子さんも受け入れていく。
3	ホームページやSNSでの情報発信が弱いこと	・ICTの活用スキルが苦手な職員が多い。	・法人でホームページのリニューアルを検討している。 ・得意な職員が中心となり、SNSを取り入れるなど情報発信の方法を検討していく。